

2 各教科を意識して取り組めること

前述の探究のプロセスの（４）でも少し触れましたが、個人探究と教科学習は切り離して考えるものではありません。むしろ、密接にかかわっているのです。ここでは、各教科の視点から見た様々な探究方法をほんの数例ですが示しました。

○国語では、例えば教科書教材に出てくる子どもが興味をもった物語文の作者にクローズアップし、その他の作品を読んでみる。よりたくさんの作品に触れ、比較したり関連づけたりすることで、その作者の傾向や特徴がわかってくる。新美南吉や宮沢賢治などは、記念館もあるので作品以上の情報も得やすい。また、自分が人に読んでもらいたい本を３分でプレゼンし、互いに交流・評価する手法も効果的な学習方法である。

○算数では、暮らしの中の数や形、空間などを見つけて数や量で明らかにしてみたり、自作の問題集などを作ったりしてみる。例えば、住居全体の容積を実際に測定する。マンションなら一戸数から全体の容積を求めることも可能になる。そこから、その建物の高さや底面積なども明らかにできる。テレビ塔やその他のビルと比較したり、名古屋市のランキングを作ったりしても面白い。

○社会では、大河ドラマを視聴している子どもがいるのなら、登場人物の生い立ちや経緯、功績、関連人物を調べてみる。教科書や資料集なども活用できる。NHK 名古屋放送局に問い合わせてもオリジナルの情報が得やすい。これも新型コロナウイルス感染の終息を待たないといけないが、いつか主人公が歩んだ土地や建物、資料館などに実際に訪れることで、知識がより実感のともなった確かな学びとなる。

○理科では、これも暮らしの中にある様々な科学に着目してみることが、子どもたちの知的好奇心をくすぐる。例えば、水溶液、海水が手に入るのなら、真水と天然塩に分解してみる方法を試行錯誤してみる。成功したら、その塩を使っておにぎりにして食してみる。自分で導き出した方法で取り出したミネラルたっぷりの塩で握ったおにぎり、きっとその味は、格別なはずである。生活の中には、いろいろな水分や成分が溶け込んでいる物質が存在していることに気付くきっかけになるだろう。

○生活では、直接体験を重視する。プランターなどを活用して夏野菜などを栽培してみる。栽培意欲を持続するためには、目的意識を明らかにする必要がある。例えば、収穫した夏野菜を使ってピザパーティーを計画する。こんな目標があれば失敗はできない。野菜が生長するためのよりよい方法を見つけ、栽培意欲も継続するはずである。低学年だからこそ、活動の楽しさ、学ぶ喜び、自分の成長を実感して、自ら学ぶ素地を育んでいきたい。

○音楽では、現在、インターネットで公開されているオーケストラなどのアーティストのコラボ合奏に合わせて、自分でも演奏してみる。すでに所有の楽器を使ってもいいし、打楽器などを製作してもよい。自分なりのアレンジを加えてみてもいいし、振り付けなど考えてもいい。可能ならばご家庭のサポートのもと、演奏の動画を UP して自身も参加してみると、他者からの反応も返ってきて学びの成果も得やすい。

○図画工作では、テーマや表現するものを決め、作品をカメラなどに撮り溜めて、自分だけの作品集を作ってみる。例えば、レゴブロックを核とするものに決めて、一日一個作品を仕上げていく。先にテーマを決めて表現してもいいし、できた作品から生まれた言葉を絞り出してもいい。静止画や動画などにして記録して、その足跡を並べてみると自分だけのオリジナル作品集ができる。

○家庭科では、いつ起きるかわからない自然災害に備え、家族の防災バックの中身について考えてみてはどうか。バックの中に入るものには限りがある。避難場所や家族との連絡方法も含めて、家族と話し合って本当に必要なものを選んでいく。自分の命をつなぐもの、絶対に必要で家にはおいていけないもの、視点は多様に広がるだろう。

○保健体育では、好きなスポーツの選手を調べてみる。ただ、見るだけでなくその選手の出身地や動きや長所、特徴などを調べる。今は動画サイトなのでプレーを何度でも確認することができる。「羽生選手は、なぜ 4 回転も回れるのか?」、「ビシエド選手の打球は、なぜあんなに飛ぶのか?」問いを明らかにし、「タイミング」、「体の使い方」など自分の言葉で考えを導き出す。選手図鑑にまとめてもいい。学校が再開してその競技の体育の授業で、あるいはクラブでの活動で、その選手のイメージを自分の動きに重ねてみるといい。

○外国語では、興味のあること、伝えたいことを英語で表現してみる。大切なことは、今知っている英語を使うことと、今は知らないけど知りたい英語表現を調べ明らかにし、知っている言葉と合わせて表現すること。実際に声に出したり書いたりしながら、自分の英語力を積み重ねていく。近い将来、自分の英語が海外の人に通じた、使えた、コミュニケーションがとれたということを実感したい。

○道徳では、今まさに新型コロナウイルス感染拡大防止に向けて、規範的な生活とは何かを考えてみたい。自分と、自分の大切な人の命を守るための行動であることに気付くことができれば、今の生活は「やらされていること」ではなく、「やらなければいけないこと」になる。社会からの押し付けではなく、自分で考えて実行に移せたのなら、その成長を大人は見逃すことなく価値づけてあげる。そうすれば、子どもたちのストレスは格段に小さくなるはずである。

【保護者の皆様にお願い】

おわかりいただけたかと思いますが、探究的な学習を確かな学びにするために重要なことは、普段の教科で習ったことをそのプロセスの中で使ってみることです。今取り組んでいるプリント学習や学習コンテンツによる知識・技能の習得が、個人探究の中で生きてくるのです。習ったことが使えたとき、役に立ったとき、「やらなければいけない（やらされている）こと」が、「（自分が）やりたいこと」には必要だということを実感できれば、基礎学力の定着にもつながります。

ここで留意したいことは、教科の枠で捉えてしまうより、テーマやそこで扱う題材を中心に学びのストーリーを構成することです。例えば、日本のブランド米から社会、理科、家庭科の学びがつながる。世界のミュージシャンから音楽、国語、外国語、社会の学びがつながる。季節の移り変わりから理科、算数、国語の学びがつながる。このように、生活の中から生まれた興味・関心から学びをスタートさせ、後から教科がリンクしてくるイメージをもったほうが効果的な探究的な学習となります。